

- 1/ 伊豆石を使った、築 70 年の石蔵。蔵上部の小窓についている庇は、残っていた庇を参考に復元しました。
- 2/ 石蔵の構造を活かして設計した店内。手前のテーブル3台は、鬼胡桃 (オニクルミ) で製作しました。
- 3/ 大きな庇が、蔵の雰囲気と合っています。暖簾が涼しそう…。
- 4/ 元々の蔵の出入り口にあった 4 枚戸 (木格子戸・鉄格子戸・漆喰戸・鉄扉) をそのまま活かしました。
- 5/ 鉄扉には、こんな飾りが…。建てた方の遊び心が感じられます。
- 6/ 「華蔵」の名のごとく、様々な花に囲まれています。洗い出し仕上げの花壇とも似合います。
- 7/ 今回のメインであるカウンターには、5mのウォールナットを使用しました。
- 8/ まずは「華蔵ブレンド」はいかがでしょう。ケーキと共に、お楽しみ下さい。

『華蔵』の由来

華蔵の“蔵”は石蔵の蔵ですが、“華”とは、生前お花がとても好きだったお母様にちなんで付けられた名前だと聞きました。現在駐車場になっている場所には、当時、鉢に植えられた草花で一杯だったとか。そして、お母様はその一つ一つを丁寧に育て、とても大切にされていたと聞きました。華蔵の窓から見る景色の中に、お母様の育てた植木が季節の花を咲かせています。

古 建 築
再 活 用



ジャズ&カフェ。雰囲気を感じ、
そんな大人の「くつろぎ空間」。

石蔵の喫茶店
「茶房 華蔵」

活用することで、その建物に残された技術や 素材の記憶が、次の世代に繋がっていく。

昨年の12月、今までとは少し違った建築の相談がありました。石蔵を改装して喫茶店を作りたいという内容で、早くその石蔵を見てみたいと思った私は、すぐに現場へと向かいました。そこには伊豆石で作られた石蔵があり、詳しく調査してみると、内外とも状態はとも良く、特に石積みは歪みが少なく、石屋さんもその綺麗さに感心する程でした。

Yさんと打合わせを重ね、2月上旬から工事に入るようになりました。今回の工事での主役は石屋さんです。本来は石で造る事が仕事なのですが、窓を開ける為に石を開く事が、今回の大きな仕事でした。伊豆石は比較的柔らかい石で、簡単に割れてしまいます。目地の位置と窓の配置を考えながら、慎重に工事をしていきました。石蔵とは言いいますが、すべてが石の積石造ではなく、竹小舞の土壁の外周に石が積まれたものです。工事の最中に解ったのですが、カスガイを90度ひねったお手製の金物で、細かく石と柱が固定してあり、揺れて石が崩れ落ちないように工夫されていました。蔵の柱や梁も太く立派なもので、柱は松の5.5寸角(65mm)が3尺ピッチで建てられ、1尺2寸(360mm)程の松梁が同じく3尺ピッチで架けられています。地震などで建物が揺れた時、石の重みはそのまま建物に寄りかかって来る為、これだけの構造が必要なのです。現代の住宅に比べるととても頑固な造りで、それほど古くはない建物ですが、構造の中に伝統と現代には無い裕福さを感じました。

石の開口は無事完了し、補強枠の設置・窓枠の工事も完成しました。全体の工事は約2ヶ月で完成し、4月の下旬に無事オープンする事が出来ました。

「この石蔵をなぜ喫茶店にしようと考えられたのですか?」と、Yさんに尋ねた事があります。そこには、何とかこの石蔵を活かしたいという、Yさんとご家族の強い思いが込められて

いました。お菓子の蔵として使われていた石蔵も、時代と共にその場を失って行き、次第に色々な物が入られ、物置になってしまったといえます。このままではもったいない、何とか活用していく事で、もう一度この蔵を桧舞台に…と思つたのでしょう。友人の勧めもあり、喫茶店として蘇らせる決意をしたと聞きました。

建築物というものは、そこに暮らす人にとって日常の安らぎの場、また地域の人にとつてはシンボルでもあります。しかし、使われない為に空気が通らず湿度が溜まれば、木材で造られた部分の傷みは加速していくでしょう。使っていく事は、建物の寿命を延ばす事にもなります。そして生活の中で活用することで沢山の人の目にもらい、その建物に残された技術や素材の記憶が、次の世代に繋がっていくのだと思います。民家再生や古材利用といった現代の動きの中で、建築物を活かして使う「活用」と言う方法も、これからのあり方ではないかと感じました。

今回石蔵の改修工事を行わせて頂き、建築に携わる者として貴重な体験をさせて頂きました。私の中に、古いものを活用していくという思いが、今まで以上に膨らんできたように思います。
(文)コロボ 山崎健治



ブレンド珈琲 400円～
ストレート珈琲 450円～
※人気のケーキセットは
お飲み物+250円です。

〒426-0025 藤枝市藤枝 5-6-48
Tel&Fax : 054-641-0386
営業時間 : 10:00 ~ 19:00
定休日 : 月曜日、隔日曜日

